

「東お多福山ススキ草原復元」活動報告

森脇肇子

早春の全面刈り作業

2018年5月23日(水) 9:00~14:30

作業項目：①特別保護区内（芦屋市域）の眺望点周辺およびワレモコウ育成地のササの全面刈り

：②眺望点A天ヶ峠までの登山道の水切り

：③植生調査 調査区 2-6の植物調査を実施

参加者：斧田一陽、田島聖子、森脇肇子(3名)

作業内容：

参加者約40名が3班に分かれて作業した。JACのメンバーの斧田は①を、田島・森脇は午前中を②に、午後を①に当て作業を行った。田島・森脇の午前中の作業は、水切り場所を作成する男性2名に付いてその付近のネザサの手刈りを行った。前回までに作られた水切り場所の補修を中心に5、6箇所再生、新たに3箇所を作成した。斧田は①の作業場で刈り払い機を使用してネザサの刈り取りを行った。この場所は丁度1年くらい前に、芦屋市からネザサの刈り取りを自由しても良いという許可が出て以来、この活動を通して少しずつ草原に再生されてきている。小職が初めて参加した3年前はネザサを掻き分けて進んでいた場所なのだから信じられない。今回刈り取られたネザサは2mもの長さだった。田島・森脇は午後からこの残骸の集積作業に当たったが、かなりの重労働となった。いつもの作業の3倍はかかっていたように思う。

今回も①の作業場所はまるでリゾート地のように美しく草原に再生された。今回も素晴らしい達成感を味わうことができた。



